

船舶事故等調査報告書

平成24年9月27日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2012函第15号	
事故等種類	乗揚	
発生日時	平成24年2月24日 22時29分ごろ	
発生場所	北海道白老町白老港東防波堤先端付近 白老町所在の開発局白老高砂沖人工リーフB灯標から真方位225° 2.2海里付近 (概位 北緯42°31.0′ 東経141°19.3′)	
事故等調査の経過	平成24年3月6日、本事故の調査を担当する主管調査官（函館事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	貨物船 第六十八幸栄丸 ^{こうえい} 、748トン 134549、株式会社村瀬海運及び独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構	
乗組員等に関する情報	船長、四級海技士（航海）	
死傷者等	なし	
損傷	本船 左舷船尾船底外板に亀裂、凹損及び擦過傷 消波ブロック及び防波堤 コンクリートの欠損	
事故等の経過	<p>本船は、船長ほか5人が乗り組み、空船で白老港中央ふ頭4号岸壁から出港し、船長が単独で操船して港口へ向けて南東進した。</p> <p>船長は、右舷前方に入港船である小型漁船の灯火を認め、同船の動静のみに注意を向けていたところ、本船が白老港東防波堤（以下「本件防波堤」という。）に接近していることに気付いた。</p> <p>船長は、本件防波堤を避けようとして右舵一杯としたのち、続いて舵を中央に戻して前進したところ、平成24年2月24日22時29分ごろ、本船は、本件防波堤先端付近の消波ブロックに乗り揚げ、左舷船尾が本件防波堤に衝突した。</p> <p>本船は、自力で離礁し、青森県八戸市八戸港に向けて航行を開始したものの、損傷状況確認のため、引き返して白老港へ入港した。</p>	
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 北西、風力 2、視界 良好</p> <p>海象：海上 平穏、潮汐 低潮時</p>	
その他の事項	<p>本船の喫水は、船首約1.8m、船尾約3.6mであった。</p> <p>本船は、ふだんは白老港東ふ頭に着岸していた。</p> <p>船長は、白老港の入出港の経験が豊富であった。</p>	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>本船は、白老港を南東進中、船長が、入港船に意識を集中し、船位の確認を行っていなかったことから、本件防波堤に向かって航行し、本件防波堤先端付近の消波ブロックに乗り揚げたものと考え</p>

	えられる。
原因	本事故は、夜間、本船が、白老港を南東進中、船長が、入港船に意識を集中し、船位の確認を行っていなかったため、本件防波堤先端付近の消波ブロックに乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。
参考	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 <ul style="list-style-type: none">・レーダーやGPSを活用して船位を確認すること。・港内では、できる限り操船補助者を配置すること。